

財団だより

第161号

2020.3

多摩川

カワセミ飛び込み



カワセミ

写真・文 大野 章
(川崎市多摩区在住)

カワセミ求愛給餌



カワセミは漢字で翡翠（ヒスイ）と書き、「渓流の宝石」「飛ぶ宝石」等とも言われ、奇麗な鳥の代表格になっている。高度成長期の水質汚染で、餌となる小魚等が減り、一時は珍しい鳥になってしまった。しかし、現在は水質改善により、身近な川や公園の池でも見られるようになってきている。多摩川でも目にする機会が増えて、野鳥観察者や散歩の人の楽しみとなっている。特に春は、雌雄のペアが、特徴のある声でチーチー鳴き合うので見つけやすく、求愛行動が観察できる。又、繁殖が成功すると、親子の愛らしい振る舞いも楽しめる。カワセミがよくいる水辺を通るとき、視線の先に青い姿を見つけると、何だか幸せな気分になる。

目次

- | | |
|--|---------------------------|
| ■ 多摩川散歩…………… 2 | ■ インフォメ／多摩川…………… 8 |
| ■ 多摩川に学ぶ…………… 3 | ■ 一年のうごき 事業日誌…………… 16 |
| ■ 連載6 郡道改良事業と有吉劇場… 4 | ■ 新連載「ふらり、さらりと 川辺で一服」… 30 |
| ■ ニヶ領宿河原堰改築20年
アニバーサリープロジェクト…………… 6 | ■ 事務局より…………… 31 |

多摩川散歩

多摩川源流大学から



多摩川源流大学事務局
NPO法人多摩源流こすげ事務局
東京農業大学非常勤講師

石坂 真悟

小菅村での台風 19 号の被害

昨年 10 月 12 日に関東地方に上陸した台風 19 号の影響で、小菅村では 391mm の降雨を観測しました。村内では規定雨量による道路通行止め、道路への土砂流出、出水による橋脚への一部等の被害がありました。避難所が早期に開設され、日頃の防災意識の高まりから人的被害等が無かったことが幸いです。まだまだ、流域では爪痕が残っている箇所も多いと伺います。

一日も早く、復旧できることを願っております。



小菅川冬期ニジマス釣り場付近（現在、完全復帰）



土砂くずれにより一時通行止め（現在復旧済）

林道の整備が進んでいます

毎年、源流体験のスタート地点になっている、白糸の滝駐車場から雄滝駐車場までの林道がこの冬に一部コンクリート舗装されました。

全線コンクリート舗装ではありませんが、今までより快適に、林道走行ができるようになりました。



林道の整備状況（雄滝入口付近）

源流体験の価格変更について

多くの皆様にご好評いただいている多摩川源流体験ですが、残念ながら昨年の体験中に軍手や靴下の未着用によるケガなどが発生してしまいました。今後も皆様に、より安全で安心できる源流体験を提供・継続していきたいと考え、大変恐縮ではございますが体験料金を変更させていただきたく皆様にご理解をお願い申し上げます。

◎変更点

2020 年度より「軍手、滑り止め用靴下」の貸出

- ・団体参加費 1 名 2,800 円（大人・子ども同額）
- ・賛助会員参加費 1 名 2,300 円（同 上）

◎釣り解禁

小菅川での溪流釣りが 2020 年 3 月 7 日（土）正午に解禁します。毎年この解禁日に併せて小菅川で釣りを楽しんでいるアングラーの有志の方々と、釣り具やルアーやアウトドア用品の販売を行って、解禁日を盛り上げるイベントを開催しております。解禁日初日はぜひ小菅川での釣りをお楽しみください。



釣り場

■解禁イベント 3 月 7 日（土）9 時

■2020 年度遊漁期間

3 月 7 日（土）正午～9 月 30 日（水）

★遊漁料

日釣券 1,000 円（身障者・女性・中学生は 500 円、小学生以下は無料、現場売りは 1,500 円）

年 券 5,000 円（女性・中学生：2,500 円）

特別年券 7,500 円（女性・中学生：5,000 円）80 枚限定

多摩川に学ぶ

自然の力、子どもの力、地域の力



NPO 法人砧・多摩川あそび村

理事長 上原 幸子

地域の思い

台風到来から数ヶ月。河川敷全体には、どうすることもできない瓦礫がたくさんあります。多摩川をフィールドに活動する者としては、自分たちにできることはないものかと、皆一様に心を痛めています。この誰もが経験のない状況の中、自治体による整備が始まりホッとしている方も多いことと思います。

私たちは「せたがや防災 NPO アクション」というネットワークに所属しています。世田谷で活動する様々な NPO が連携し、互いに強みを生かし合えたらと、行政や地域と話し合ってきました。市民としてできること・できないこと、今後の課題など区内の多様な機関と情報を 12 月に共有しました。そして私たちからは、多摩川の様子と原っぱ遊び場の復旧状況についてお伝えしました。

遊び場の整備は、世田谷区と協議の上、地域の皆さんにご協力いただきながら行ってきました。手作業での土砂のかき出しを見るに見かねた地元建設会社さんが、ボランティアで重機を出してくださり整備が一気に進みました。その際にいくつもの土の山が出現。土山に登った子どもたちから、「世界中が見える」とかわいい声が聞こえ、川砂の山は 1 つをそのまま残し、遊び場の新たな主役となりました。



協力してくださった地元建設会社さん



土砂をかいてできた土山は大人気

自然が自ら治そうとする力

洪水では、そこにあったものが流され上流から流れ着いたものが棲みつくなど、生態系の攪乱が起こると言われています。瓦礫の中には生きのまま横たわり根付き始めている樹もあり、命がバトンタッチされていく様子を目の当たりにしています。樹は枝が折れたり亀裂が入ったりすると、菌やシロアリの内部侵入を防ぐため樹皮を再生し、自分で傷を治そうとします。よく見ると人の皮膚が再生していくように、傷口を塞ごうと樹皮が盛り上がっている様子が見受けられとても感動します。その再生を助けるために形を整えたり、消毒をするなど、自然の治癒力を生かす手入れを人の手でしてあげればいいのだと、地域の造園業者さんに教わりました。



再生する樹皮

しかし、流されずに横たわった状態のままの樹も生かすのか悩ましいところです。子どもたちにとっては新たな秘密基地と化しています。子どもは、どんなものも遊びに変える豊かな発想力を持っています。人が作ったものに囲まれて育つ中、自然が子ども本来の力を呼び覚ましてくれているように感じます。この原っぱに携わる大人たちも、子どもと自然の力に触発されながら、新たな遊び場がリデザインされていくことに魅力を感じています。自然との共生は、思い通りにならないからこそ試行錯誤する意義があります。自然の中でたくましく育つ子どもたちを、できる限り見守り支えたいと思っています。

原っぱは、日々雨水浄化と日光消毒が進み、少しずつ落ち着きを取り戻しています。春になれば一面の緑の大地が戻ってくることでしょう。年末に子どもたちと種を蒔いたレンゲとシロツメクサも芽吹き始めています。今年は今までで一番待ち遠しい春です。



自然が作った秘密基地



多摩川改修 100 年

6. 郡道改良事業と有吉劇場

国土交通省国土技術政策総合研究所
主任指導官、博士(工学) 和田 一範

神奈川県御幸村の多摩川無堤地区への堤防新設を東京府側が了解しないために、内務省が認可を出さないという図式に業を煮やした有吉知事が進めた道路改良による盛土建設は、東京府側の住民の猛反発を受け、多摩川兩岸の地域住民、各村役場、郡役所、県、府、両議会議員、帝国議会議員、内務省をあげての大騒動に発展してしまいました。

内務省、神奈川県、東京府の調整の結果、内務省から最終命令が出た時点で、ほとんど完成して

いた盛土の工事の跡が、明治 39 年と大正 6 年の大日本帝国陸地測量部の測図に記されています。

図 1 は、明治 39 年測図から、御幸村上平間、中丸子を拡大したものです。平間の渡し上流から人家連タン地区がつながっていて、郡道はその背後、多摩川と反対側を走っています。この区間を、郡道をそのまま盛土したのでは、この集落を洪水から救うことはできません。

中丸子の中心に真言宗智山派の無量寺がありますが、郡道はこの寺の西側(左側)を走って、その北側で人家の間を縫うように進んでいます。やはり郡道をそのままかさ上げすると、この寺と人家は水没してしまいます。

有吉堤の建設で、これらの施設はどうなったのでしょうか。

図 2 は、大正 6 年測図です。有吉堤完成の翌年の測量で、有吉堤の全貌がはっきり見て取れます。あわせて、内務省の最終命令が出た時点でほぼ完成していたとされる盛土が、まさに有吉知事が郡道改良として進めてきたもので、これがどのようなものであったかがよくわかります。この図を見るとみごとに郡道は多摩川側に切り替えられて、これら一連の人家連タン地区を洪水から守る河川堤防兼用の施設として機能していることがわかります。

このように郡道改良事業を検証してみると、有吉堤 1,200 間(2,180m)のすべての区間にわたって、現道をそのまま盛土した箇所はなく、いずれも新堤を、各集落の前面、川側に建設したものであることがわかるのです。

しかし、これは明らかに堤防の新設であり、道路改良と銘打つには大きな無理があります。河川法の手続きを逃れた、河川法違反であるこの盛土工事を、有吉知事はどのような考え



図 1. 有吉堤建設前、大日本帝国陸地測量部明治 39 年測図溝口より

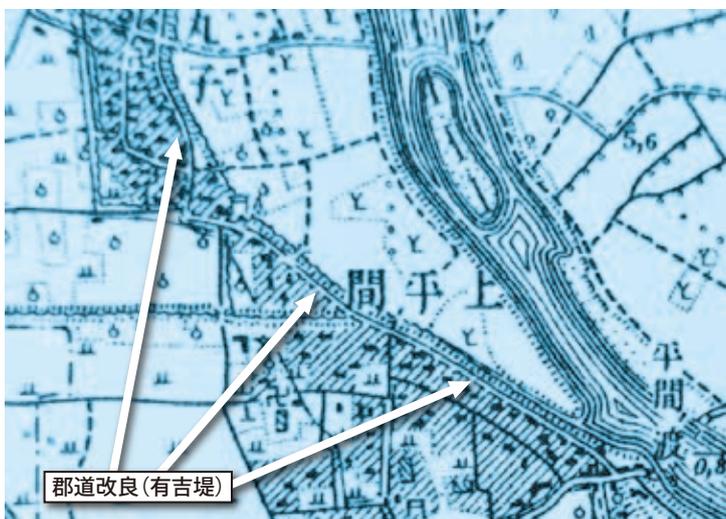


図 2. 有吉堤建設後、大日本帝国陸地測量部大正 6 年測図川崎より

で進めたのでしょうか。そこには、有吉知事一流の山っ気のある政策判断があったのです。

大正4年(1915年)11月29日、有吉知事が、郡道改良による盛土整備に踏み切った県議会の会期中に、東京・神奈川両府県の議会において、多摩川の内務省直轄改修についての大きな動きがありました。12月19日神奈川県議会、12月21日東京府会は、それぞれ直轄管理についての請願を決議します。翌大正5年(1916年)この請願を受けた第37回帝国議会衆議院請願委員会は、3月1日多摩川に河川法の施行の件、第一期線に繰上げるといふ希望を以て、という強力な付帯付きで、採択をします。

一方で1月25日、郡道改修工事は正式に許可され2月着工。毎日200人の地元住民が作業人夫となって、工事は進捗してゆきます。

直轄改修が実現すれば、無堤地区への新堤建設は不要になりますから、いわば二股路線を突っ走ったというのが、有吉知事の政策判断なのです。

おそらく、有吉知事は、郡道改良事業に踏み切ったとき、この盛土を最後まで仕上げてしまうことは考えていなかったのでしょうか。強引に工事を始めてしまえば、内務省が何らかの形で東京府をなだめて、河川法の認可を出してくる。もし、それでも認可ができないとなれば、内務省との交渉の過程で、工事を中止する代わりに、直轄事業化を見返りに得ることが出来ないか。直轄事業化には多摩川のほかに全国各地の河川が手を上げているので、この騒動をおさめるためには、多摩川の直轄改修に踏み切るしかない、という交渉材料を得て、多摩川のプライオリティを全国一位に持ってこようとした、ということなのです。

しかし、そのシナリオは歯車がずれて、だんだん大きな騒動になってゆきます。有吉劇場の誤算は次のようなものです。

1) 郡道改良としての川側盛土着工に際して、地元御幸村がこの計画を非常に喜んで事業推進にあたった。すなわち50cmの盛土で、いわば納得してしまった。

2) 東京府側地元の反発が、予想外に大きかった。

3) 内務省からの中止命令がいきなり出てきて、思惑としていた様々な交渉の場を失った。

4) 中止の命令に、しばらくは内務省との間で蕎麦屋の出前的な押し問答を繰り返すが、地元御幸村の熱意を見ると、実際に工事を止めるのが困難な状況になっていた。

5) 結局その時点では、工事を止めるよりも完成させてしまう方が対応がしやすかったので、地元の強力な連携のもと、強引に完成に持って行った。

6) 内務省・神奈川県・東京府の三者協議において、河川法を遵守するかたちでの調停案が出て、ようやくこれで東京府側も納まることになった。これは有吉当初の想定通り、内務省が東京府を説得する側に回ったものであるが、事態収拾のイニシアチブを内務省が握ったのは、大きな減点であった。

その結果、自らの手で事態を収拾できなくなった有吉知事には、譴責処分が出ました。譴責処分に際しての内務省の考え方は、

- ・内務省の指示に対応しなかった

- ・全国的に同様の事例が出ては示しがつかない

ということが基本にあります。二期河川の早期着工については大蔵省と連年折衝を重ねており、帝国議会における請願対応も含めて、徐々に外堀を埋めている段階である。その矢先に余計な騒動を、内務省からの官選知事として在職している者が引き起こしている、という強い問題意識があったと思われる。一方で、このほかに、

- ・官選知事が譴責処分を受けるような事態になったのは、そもそも大河川の改修を、左右岸の異なる府県が行うことが原因。国の立場で統一的に実施することが唯一の解決策である。

という大蔵省への交渉材料も得ています。

その処分も含めて一連の動きは、内務省による大蔵省交渉での好材料となり、第二期河川の皮切りとして多摩川の内務省直轄事業化が実現しました。



有吉堤跡と有吉堤竣工百年の碑、右は筆者

この流れは数々の誤算を越えて、結果的には有吉知事のシナリオに沿うものになります。

◆二ヶ領宿河原堰改築20年アニバーサリープロジェクトの概要

二ヶ領宿河原堰(左岸:狛江市猪方、右岸:川崎市多摩区宿河原)は、平成6(1994)年から改築事業に着手し、平成11(1999)年3月に完成しました。今年度、令和元(2019)年でちょうど20年の節目を迎えました。

そこで、堰の果たしてきた役割等について、より知っていただくために、京浜河川事務所では下記のイベントを実施しています。

◇二ヶ領宿河原堰改築20年記念講演会

【開催概要】

開催日:令和2年1月25日(土)

会場:宮前市民館 大会議室(川崎市宮前区)

【プログラム】

- ・開会
(国土交通省関東地方整備局 京浜河川事務所長)
- ・来賓挨拶
(川崎市副市長 藤倉 茂起氏)
- ・講演(1)「二ヶ領宿河原堰改築事業の概要」
(株式会社東京建設コンサルタント 東京本社長 成田 一郎氏)
- ・講演(2)「二ヶ領せせらぎ館の活動の歩み」
(NPO法人多摩川エコミュージアム 副代表理事 升田 修二氏)
- ・基調講演「多摩川と二ヶ領用水」
(神奈川県立歴史博物館 学芸部長 望月 一樹氏)
- ・閉会
(国土交通省関東地方整備局 京浜河川事務所副所長)



講演会 基調講演



講演会 パネル展示

◇パネル展

【実施概要】

期間:令和2年2月1日(土)～令和2年3月31日(火)

(※せせらぎ館の開館時間(10:00～16:00)に準じます。)

会場:二ヶ領せせらぎ館(川崎市多摩区宿河原1-5-1)

【展示内容】

二ヶ領宿河原堰のこれまでの歴史や改築事業に関するパネルを合計7枚展示(次ページはパネル例)



JR南武線・小田急線「登戸駅」から徒歩約10分

京浜河川事務所ではFacebookを公開しています!

京浜河川事務所の取り組みや所管する多摩川、鶴見川、

相模川、西湘海岸、沖ノ鳥島に関する情報を、みなさんに

分かりやすく情報発信していきます

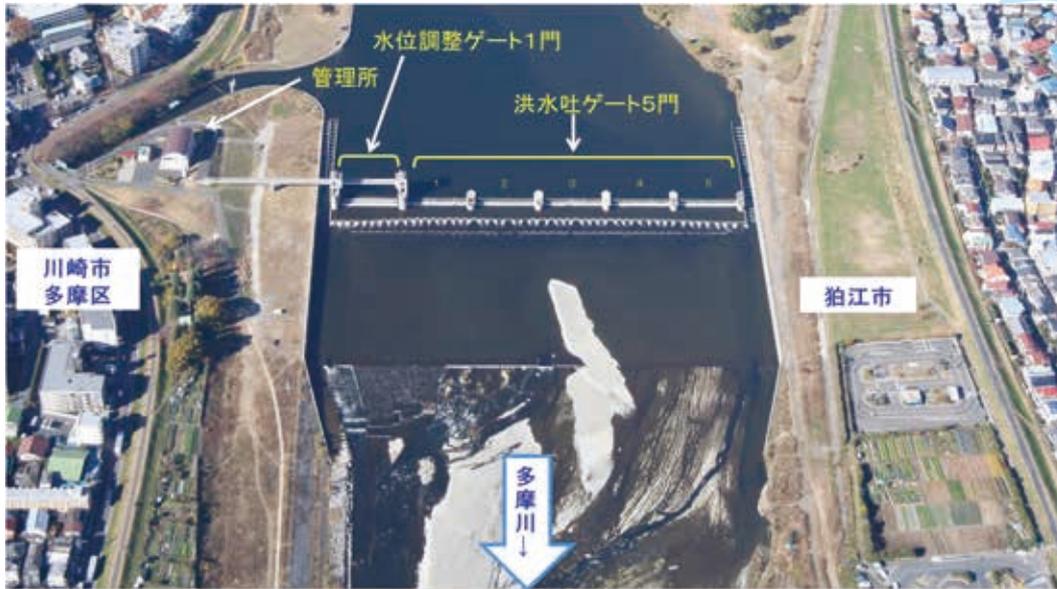
<https://www.facebook.com/keihin.river.mlit/>



二ヶ領宿河原堰の概要



多摩川イメージキャラクター
百川多摩



上空から見た二ヶ領宿河原堰

▶ 二ヶ領宿河原堰の概要

所在地	多摩川22.4k付近
用途	環境用水の通水(準用河川二ヶ領宿河原線)
延長	219.600m(可動部178.500m)
ゲート	起伏式×5門 引上式×1門
魚道	83.250m
設計期間	1994(平成6)年6月7日~1995(平成7)年3月31日
施工期間	1995(平成7)年10月~1999(平成11)年3月



▶ 水位調整ゲート

使用目的	取水、流量調節
ゲート形式	シェルローラゲート
門数	1門
径間×扉高	29.750m×2.500m
ゲート数高	A.P.+16.500m(計画河床高)
水密方式	前面三方ゴム水密方式
設計水位	上流側 A.P.+19.500m(水深3.0m) 下流側 A.P.+16.500m(水深0.0m)
開閉方式	ワイヤーロープウインチ式(2M2D)
揚程	7.896m(HWL+1.5m)
開閉速度	主電動機 0.30m/min 予備電動機 0.15m/min



▶ 洪水吐ゲート

使用目的	取水、流量調節
ゲート形式	鋼製起伏ゲート
門数	5門
径間×扉高	29.750m×2.000m
ゲート数高	A.P.+17.000m(計画河床高+0.50m)
水密方式	前面三方ゴム水密方式
設計水位	上流側 A.P.+19.500m(水深2.5m) 下流側 A.P.+17.000m(水深0.0m)
開閉方式	油圧シリンダ両端駆動式
揚程	75°
開閉速度	75°/20 min



インフォメ／多摩川

多摩川流域他の各種団体等の3月から6月に開催される環境活動に関する
主な行事・イベント情報を紹介いたします。

美しい多摩川フォーラム

- 1. 第13回桜コンシェルジュ展にて「多摩川夢の桜街道～桜の札所・八十八ヵ所」写真展を開催
(3月20日(金)～4月12日(日):立川市・国営昭和記念公園花みどり文化センター)
- 2. 第11回“美しき桜心の物語”の語り会
(3月28日(土):日の出町・寶光寺語り部・かたりすと 平野啓子副会長)
- 3. 桜ウォーキングと桜守学校
(4月3日(金):青梅駅～梅岩寺～釜の淵公園、リビング多摩)
- 4. 多摩川“水”大学講座・第1回(5月15日(金):昭島市公民館)
- 5. 第13回多摩川一斉水質調査(6月7日(日):青梅信用金庫本店)
- 6. 多摩川“水”大学講座・第2回(6月19日(金):昭島市公民館)

■ お問い合わせ先

美しい多摩川フォーラム事務局(青梅信用金庫 地域貢献部内)
担当:及川/鈴木/木村
TEL 0428-24-5632 FAX 0428-24-4650
E-mail forum@tama-river.jp URL <http://tama-river.jp>

一般財団法人 世田谷トラストまちづくり

- 野川せせらぎ教室～世田谷区成城四丁目付近の野川
・4月26日(日)・5月24日(日) 午前9時30分～11時30分 ※要申込
- 初夏のバードウォッチング～多摩川周辺
・5月23日(土) 午前9時30分～正午ごろ ※要申込
- 世田谷トラストまちづくりビジターセンター「身近な自然と触れ合うミニイベント」
～世田谷区成城4-29-1(野川沿い)/TEL 03-3789-6111
・原則毎月第1日曜日 午後1時30分～3時 ※要申込
(4月のみ、4/5(日) さくらカフェ 午前10時～午後3時頃 ※申込不要)

■ 申込・お問い合わせ先

(一財)世田谷トラストまちづくり トラストみどり課
TEL 03-6379-1624 FAX 03-6379-4233
〒156-0043 世田谷区松原6-3-5
財団HP <http://www.setagayatm.or.jp/>

むさしの化石塾 多摩川で化石から学ぶ環境学習です。

「むさしの化石塾」ではどんなことをするのか？

地域市民を対象に、多摩川で豊富に産出する化石から学ぶ環境学習を行っています。
 むさしの化石塾は、化石を教材にした調べ学習を行う生涯学習教室です。
 発見した化石の調べ学習を通して、学術研究を行う場合があります。
 学会発表や論文記載、発見化石の博物館への貸与や寄贈も行っています。
 是非お気軽にお問い合わせください。

多摩川の化石について

多摩川は第四紀学の材料の宝庫です。
 その理由は多摩川の川底では、削られるたびに第四紀層の地層の中から次々と化石が出現するからです。
 陸に住む化石では、アケボノゾウ（動物化石）やメタセコイア（植物化石）などが見つかります。
 海のご生物では海生哺乳類や貝化石が見つかります。
 過去に生きていた古生物の証が流失する前に、未然に採取して教材として生かすことを目的としています。

3月－6月度 定例ワークショップのお知らせ

■室内教室（主に多摩川産の第四紀層の化石標本群の調べ学習会）

- 3月 開催日時：3/14（土）14-16時【2時間】
- 4月 開催日時：4/18（土）14-16時【2時間】
- 5月 開催日時：5/16（土）14-16時【2時間】
- 6月 開催日時：6/20（土）14-16時【2時間】

・開催場所・連絡先：〒208-0003 東京都武蔵村山市中央 3-20-7 むさしの化石塾にて

・参加人数：1回10名まで（3回とも少人数限定実施）。

※要事前予約：（1週間前までに事前参加申込み願います）

※開催日1週間前までにメール（Email: mkj@sweet.ocn.ne.jp）
 で、参加者の連絡先、氏名、年齢、性別、希望など記入の上、
 申し込み願います。

※日程は変わることがあります。

※参加費：2,000円（発掘母岩・教材込み）

■化石採集会（オプション）不定期開催（お楽しみに）

台風通過後や天候の状況を考慮し、開催前に参加希望者にご案内します。

※参加費：3,000円（資料代・レク保険加入込み）

事前情報はむさしの化石塾 twitter にアップします。

https://twitter.com/musasio_fossil をご覧ください。

★むさしの化石塾にご興味のある方は、

氏名・住所・年齢・連絡先・質問事項など参加希望等の理由
 を明記の上、郵送にて願います。

■お問い合わせ先

GeoWonder 企画 むさしの化石塾

〒208-0003 東京都武蔵村山市中央 3-20-7 MKJ 事務所

むさしの化石館 042-567-1095 (FAX)

むさしの化石塾 代表 福嶋 徹 090-1769-8020



室内作業風景



森林総合研究所 多摩森林科学園

■ 森林講座

講座開催日	講座タイトル
3月6日(金曜日)	- 196℃で樹木を保存する
5月22日(金曜日)	永久凍土地帯に広がる酔っぱらいの森のナゾ
6月19日(金曜日)	大気からの窒素流入が多い森林の渓流水

会 場 多摩森林科学園 森の科学館

時 間 各講座とも 13時15分～15時

受 講 料 無料(ただし、森林講座が行われる森の科学館以外を見学される場合は、入園料として大人300円、子供50円必要となります。)

お申込方法 お申込の受付は各講座開催日の前月の1日からといたします。

(例) 3月6日の森林講座の受付は、2月1日到着分から

受付は先着順で定員に達したら締切となります。定員に達しない時でも講座開催日の1週間前が締切となります。応募受付の回答は、先着順で順次お知らせします。

往復はがき、または電子メール shinrinkouza@ffpri.affrc.go.jp で承ります。

ご希望の講座名・郵便番号・住所・氏名・電話番号・参加希望者数をご記入の上、お申込ください。なお、それぞれのお申込1通に対し、1講座3名までの受付とさせていただきます。

※お電話でのお申込は受け付けておりません。

※ご提供いただいた個人情報は、森林講座の連絡にのみ使用させていただきます。

■ お問い合わせ先

国立研究開発法人 森林研究・整備機構

森林総合研究所 多摩森林科学園

〒193-0843 東京都八王子市廿里町 1833-81

電話番号 042-661-1121 Email shinrinkouza@ffpri.affrc.go.jp

■ 第17回身近な水環境の全国一斉調査のお知らせ

日 時：2020年6月7日(日) ※世界環境デー(毎年6月5日)

測定項目 気温、水温、COD、その他(任意)

測定方法 取扱説明書にもとづき、調査キットで測定

(参加申込者に2020年4月末～5月頃に配布予定)

参加申込：同封の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、下記の事務局(みずとみどり研究会)宛に2020年3月10日(火)までにご送付下さい。

期日を過ぎた場合は直接事務局にご連絡ください。

(なお、ご記入いただいた個人情報は今回の調査に関する連絡以外に、ご本人の許可なく使用いたしません。)

申込受付：参加申込された団体はホームページ等で公表させていただきます。

■ 申込み・お問い合わせ先

事務局 全国水環境マップ実行委員会

みずとみどり研究会気付

〒185-0021 東京都国分寺市南町 2-1-28 飯塚ビル 202

TEL/FAX 042-327-3169 E-mail mizutomidoriken@ybb.ne.jp

URL <http://www.japan-mizumap.org>

小菅村

■水と火と味の祭典

「第33回 多摩源流まつり」

日 時：2020年5月4日（月）午前11時～午後8時頃

会 場：小菅村4,299番地「第1スポーツ広場」及びその周辺

多摩川の源流に位置する小菅村において、最大の規模を誇っているイベント「多摩源流まつり」は、今年で33回目を迎えます。この祭りは、村民が一丸となって作り上げる祭りであり、毎年1万人を超える人出で賑わいます。

会場では、小菅村の特産品・郷土料理の販売、多摩川流域の郷土芸能の披露、マスのつかみどりなど楽しい企画が盛りだくさんです。夜にはお松焼き、山伏による演出やファイヤードンスが行われ、約2,500発の花火が夜空を彩ります。

ゴールデンウィークは是非、ご家族おそろいで、小菅村へお越しください。



TAMA FOUNTAIN
KOSUGE-MURA

■お問い合わせ先

山梨県北都郡小菅村 4698 小菅村役場 源流振興課内

多摩源流まつり実行委員会事務局

TEL 0428-87-0111 FAX 0428-87-0933

公式ウェブサイト <http://www.vill.kosuge.yamanashi.jp/tourism/>

アミガサ事件 100年の会

■講演会：テーマ「多摩川の市民活動と今後の課題」

講 師：鈴木真智子氏 NPO 法人とどろき水辺 理事

日 時：2020年5月23日（土）午後2時～午後4時

場 所：セレサ川崎農業協同組合 御幸支店 2階会議室

川崎市中原区田尻町31（平間駅から徒歩1分）

参加費：無 料 参加申込は、FAX 又は お電話でお願いいたします。

FAX でお申し込みの際は お名前・連絡先・参加人数をご連絡ください。



■お問い合わせ先

アミガサ事件 100年の会 織戸美紀世

TEL 080-9572-7479 FAX 044-511-1812

NPO 法人 砧・多摩川あそび村

■ 「きぬたまあそび村」

「自分の責任で自由に遊ぶ」多摩川の自然体験遊び場です。

世田谷区の委託を受けて運営し、プレーワーカーと呼ばれるスタッフが常駐しています。

日 時：毎週 4 日 月・水・金・土 10 時 30 分～ 17 時（3 月まで 16 時 30 分）

場 所：多摩川河川敷二子緑地せたがや水辺の楽校はらっぱ内

アクセス：東急田園都市線・大井町線「二子玉川駅」徒歩 20 分

東急バス 砧本村行き バス停：都市大総合グラウンド前下車 1 分

成城学園前駅行き バス停：砧南中学校前下車 4 分

★イベント案内 ※イベントは「きぬたまあそび村」の活動内に、時間を区切って行います。

◎春の多摩川河川敷を探検しよう！

生き物博士の伊藤晴康さんと、洪水後の芽吹きなどを観察します。

3 月 7 日（土）13:00～15:00

◎ヨモギ団子づくり

多摩川博士・えのきんと、ヨモギでお団子を作ります。

3 月 28 日（土）11:00～15:00 材料費：200 円

◎入園・入学おめでとうの会

ぐりとぐらのカステラづくり、ぐりとぐら寸劇、鉛筆プレゼント

4 月 25 日（土）11:00～15:00

◎青空科学実験教室

みんながやりたいこと大募集中！

5 月 23 日（土）11:00～15:00

◎宇奈根の渡し実行委員会主催「宇奈根の渡し」

喜多見児童館の子どもたちが世田谷区と川崎市の宇奈根を渡し舟でつなぎます。きぬたまあそび村では、川の安全管理と自然遊びコーナーを担当します。

5 月 10 日（日）11:00～14:30

場所：多摩川河川敷世田谷区宇奈根 1 丁目地先

◎アートの日 ◎体あそびの日 各月 1～2 回

◎竹工作の日

3 月 20 日（金）13:00～15:00 4 月、5 月 月 1 回予定

詳細はブログなどに UP します。下記にてご確認下さい。



ヨモギ団子



ぐりとぐらのカステラづくり



きぬたまあそび村

■ お問い合わせ先

NPO 法人 砧・多摩川あそび村

〒157-0077 世田谷区鎌田 1-19-1-101 きぬたまの家

TEL 03-6447-9931

080-7525-8668（きぬたまあそび村開園時）

MAIL info@kinutama.com HP <https://kinutama.com/>

ブログ <http://asobimura.exblog.jp/>



きぬたまあそび村

NPO 法人多摩川エコミュージアム

❁ 第16回多摩川桜のコンサート

日 時：4月4日（土） 11:00～15:00 無料

場 所：JR 南武線 / 小田急線登戸駅下車徒歩 8分 ニヶ領せせらぎ館前広場

内 容：ニヶ領用水沿いの桜の前でコンサート 和太鼓・リトミック・合唱・声楽など

主 催：川崎市、NPO 法人多摩川エコミュージアム (写真は 2019 年 4 月 6 日多摩川桜のコンサート)



■ ラフティングボート体験乗船会 (2020年度は5月～9月 毎月開催)

開催日：5月9日（土）、6月13日（土）、7月11日（土）、8月1日（土）、9月12日（土）

時 間：9:30 から講習会后順次スタート（7、8月は午後も開催します）

場 所：ニヶ領せせらぎ館、ニヶ領宿河原堰下流

内 容：ライフジャケットを着用し、安全を確保して、6人乗り
ラフティングボートに乗り、約1km多摩川を下ります。
事前申込制となります。

参加費：1,000円 / 1人

主 催：NPO 法人多摩川エコミュージアム

(写真は 2019 年 体験乗船会)



■ お問い合わせ先

ニヶ領せせらぎ館（にかりょうせせらぎかん）【JR 南武線 / 小田急線登戸駅下車徒歩 8分】

TEL/FAX：044-900-8386 URL：<http://www.seseragikan.com/>

住 所：神奈川県川崎市多摩区宿河原 1-5-1

開館時間：10:00～16:00 5月～8月 土日祝は9:00～16:00

休 館 日：毎週月曜日（祝日の場合はその翌日）及び第一・第三水曜日



せたがや水辺の楽校

■ あそびの日 (第1日曜日 10時～12時)

集合受付場所：せたがや水辺の楽校原っぱ

2020年3月1日(日)「河川敷たんけん」

インタープリターのみきちゃんと、河川敷を探検します！

2020年5月3日(日)・6月7日(日)「水辺ガサガサ」

インタープリター、川の専門家と野川の生き物を

捕まえて観察します！

(開催場所の野川ベース(二子玉川駅近く)でも受付)



■ かわのまちアクション 2020年3月8日(日)(予備日15日)

・世田谷区宇奈根の多摩川本流に、マルタウグイの産卵環境をつくるお手伝いをします。

(一社)二子玉川エリアマネジメント共催。詳細はブログに掲載します。



撮影：小林直子

■ 2020年度開校式：2020年4月19日(日)11時～15時

毎年一年のはじめに開催する「開校式」今年で14回目です。

開催場所：せたがや水辺の楽校原っぱ(二子玉川緑地運動場ピクニックひろばとなり)

セレモニー・ネイチャーゲーム、お魚のすみかづくりなど

※お弁当は各自ご用意ください。



■ お問い合わせ先

NPO 法人せたがや水辺デザインネットワーク

Mail info@mizubedesign.org TEL 080-3007-5413 (村上)

HP <https://mizubedesign.org>

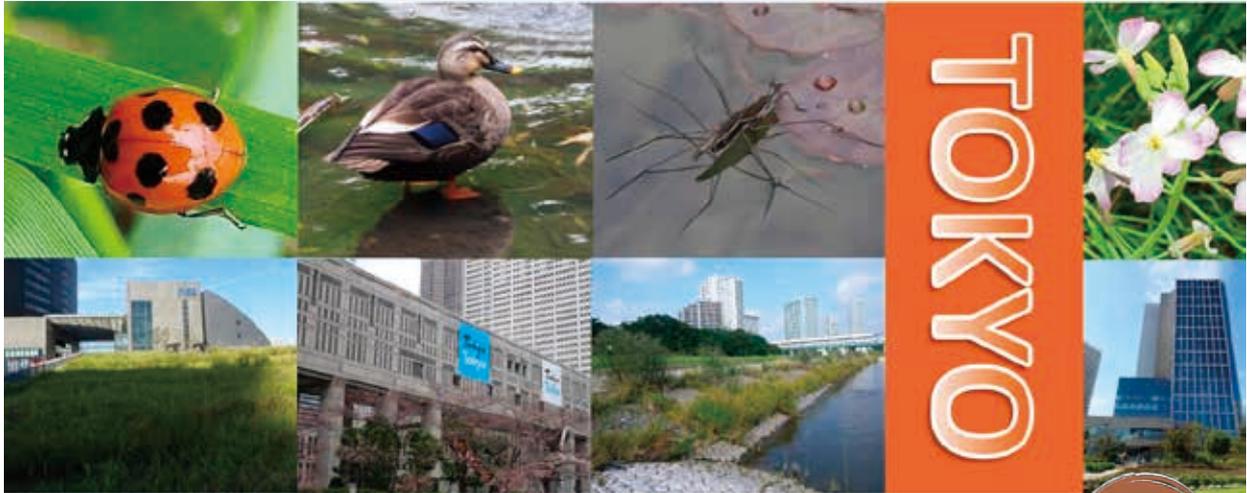
ブログ <https://semizube.exblog.jp/>

FB : <https://www.facebook.com/mizubedesign/>



～～多摩川と崖線の森の街で 一人ひとりが大切にされる毎日を～～

CNC2020-Tokyo



市民科学プロジェクト City Nature Challenge 2020-Tokyo

2020.
4.24- 4.27

参加
無料

～スマホで街の生き物を投稿しよう～

4/24～27の4日間、世界の都市で植物や動物を撮影してウェブサイト投稿する、“City Nature Challenge2020”（CNC-2020）を開催！世界の都市と競おう！

参加はかんたん！

- ・ “iNaturalist”アプリから写真投稿
- ・ 生き物の名前はAIが提案
- ・ 専門家も生き物の同定に協力

CNC-2020スケジュール

期間	イベント
4/24 以前	参加登録
4/24 ～ 4/27	全世界で開催！投稿スタート
4/28 ～ 5/3	世界中の専門家が同定
5/4	結果発表

詳細はコチラ

CNC2020-Tokyo公式サイト
<https://www.inaturalist.org/projects/city-nature-challenge-2020-tokyo>



お問い合わせ
 (一社)生物多様性アカデミー
cnc-tokyo@bda.or.jp

みんなで参加できるイベントを二子玉川で開催！

東京都市大学 二子玉川夢キャンパスではCNC2020-Tokyoイベントを開催します。
 開催日：2020年4月25（土）、26（日）

CNC2020プロジェクト企画
 カリフォルニア科学アカデミー
 ロサンゼルス自然史博物館

CNC2020-Tokyo主催団体
 東京都市大学 / (一社)生物多様性アカデミー
 協賛団体：NPO法人せたがや水辺デザインネットワーク
 後援団体：東京都環境局・世田谷区・WWF ジャパン

一年のうごき

1 事業日誌 (2019年1月～2019年12月)

- | | |
|-------|---|
| 1月11日 | 「第3回 水からはじまる生態系ネットワーク全国フォーラム」に出席
会場：一橋大学一橋講堂 |
| 1月17日 | 川崎市立古市場小学校 交流会に参加
(堤防刈草ペレットの活用について) |
| 1月25日 | 2019年度助成研究・活動の公募締切 (応募件数 60件)
(新規 50件 継続 10件) |
| 2月17日 | 多摩川子どもシンポジウム in 世田谷に参加
会場：東京都市大学 二子玉川夢キャンパス |
| 2月23日 | 多摩川フォーラム 2018「多摩川改修 100年 ～多摩川から我々が今学ぶもの～」に参加
会場：二ヶ領せせらぎ館 |
| 3月1日 | 財団だより“多摩川”第157号発行 |
| 3月2日 | 『多摩川を歌う』多摩川が歌詞に入っている校歌等を小学生が歌う合唱コンクール
及び多摩川改修100年に関わるパネルディスカッションに出席
会場：エポックなかはら |
| 3月13日 | 未来都市研究機構 シンポジウムに出席
(主催：東京都市大学、会場：二子玉川夢キャンパス) |
| 3月17日 | 第61回定時選考委員会を開催
2019年度助成研究・活動を採択
新規 (学術研究 12件、一般研究 6件)
継続 (学術研究 8件、一般研究 2件) |
| 4月1日 | 合併により「東急財団」発足 |
| 4月1日 | 第11回 東急財団社会貢献環境学術賞 推薦依頼開始 |
| 4月21日 | せたがや水辺の楽校開校式に参加
会場：せたがや水辺の楽校原っぱ (二子玉川緑地運動場ピクニックひろば隣) |
| 4月27日 | City Nature Challenge Tokyo 2019 に参加
会場：東京都市大学夢キャンパス 多摩川河川敷 |
| 5月4日 | 第32回多摩源流まつり後援
開催場所：山梨県小菅村 |
| 6月1日 | 財団だより“多摩川”第158号発行 |
| 6月9日 | ミシマバイカモ (三島梅花藻) の里 (静岡県三島市) 視察
ふじのくに地球環境史ミュージアム (静岡県静岡市) 視察 |

- 7月18日 2019年度助成金贈呈式を、渋谷エクセルホテル東急で開催
新規研究者18名、継続研究者10名に助成金を贈呈
研究者および来賓、評議員、理事、選考委員など約90名が出席
- 7月22日 事務所移転 渋谷区渋谷1-16-14 → 渋谷区南平台町5-6
- 8月14日 埼玉県立 川の博物館（埼玉県寄居町） 視察
- 9月1日 財団だより“多摩川”第159号発行
- 9月1日 2020年度助成研究・活動の公募開始
- 9月20日 第11回 東急財団社会貢献環境学術賞選考委員会を開催
中国雲南大学 生態学・地植物学研究所特別名誉教授 大澤雅彦氏に決定
- 9月29日 2019多摩川“エコ”ラシコ 清掃活動および体験学習に参加
会場：多摩川河川敷 丸子橋第一広場
- 10月19日 横浜入里山保全地域（東京都あきる野市）を視察
（コンテナを使用したトンボの保護活動）
- 10月29日 環境学習会（主催：東急株式会社）に参加
「東急財団の環境への取り組みについて」講演 東急財団事務局長 図師真吾
会場：東京都市大学 二子玉川夢キャンパス
- 11月24日 第52回多摩川流域セミナー 「アユを通して多摩川を語る」に参加
会場：二ヶ領せせらぎ館
- 11月29日 2019年度 第11回 東急財団社会貢献環境学術賞贈呈式を、セルリアンタワー東急
ホテルで開催
受賞者（大澤雅彦氏）および来賓、評議員、理事、選考委員など約90名が出席
- 11月30日 助成財団シンポジウムに出席
主催：NPO 支援財団研究会 共催：八王子市市民活動支援センター、
東京ボランティア・市民活動センター
会場：八王子労政会館
- 12月1日 財団だより“多摩川”第160号発行
- 12月6日 展示会「エコプロ2019」視察
出展中の大学関係者と意見交換
主催：産業環境管理協会、日本経済新聞社
会場：東京ビッグサイト
- 12月10日 相模川ふれあい科学館 アクアリウムさがみはら 視察
- 12月20日 未来都市研究機構 シンポジウムに出席
（主催：東京都市大学、会場：二子玉川夢キャンパス）

2 研究助成事業

当財団では、2019年度研究助成金贈呈式を、7月18日渋谷エクセルホテル東急で開催し、4月を開始月とする新規の助成研究18件に助成金を贈呈いたしました。

2018年度からの継続研究10件も承認されていますので、本年度は28件を助成しております。ここに全助成研究をご紹介します。

また2018年度までに完了した助成研究に関する成果報告書の概要を掲載します。

(所属・役職は助成開始時のものです。)

新規 学術研究 助成金受領者



亀田 豊

千葉工業大学 創造工学部
准教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,000,000円

研究課題

多摩川流域における水中微細マイクロプラスチック存在調査とシミュレーションモデルを用いた流域内挙動解析

水中のマイクロプラスチックの毒性については世界的に関心が高まっており、現在では河川からの流入による海洋汚染の報告により、その存量と挙動の解明が急務となっている。一方、2018年に実施した調査では、河川中のマイクロプラスチックは、下水処理場からの流入だけでは説明できないことが明らかになった。

そこで本研究では、重要な水源かつ貴重な自然環境である多摩川水系を対象に、マイクロプラスチックの存在状況を調査するとともに、多様な発生源を考慮した多摩川水系中のマイクロプラスチック予測モデルを開発し、発生源、濃度分布等を解明する。

これにより、環境を未来に引き継ぐためのマイクロプラスチックの排出抑制策の検討や代替物質の普及が促進されるとともに、市民や企業への環境教育の教材としての活用が期待できる。



新谷 政己

静岡大学 工学部 准教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,000,000円

研究課題

巨大都市を流れる多摩川流域で薬剤耐性遺伝子を伝播しうるプラスミドの同定とその伝播経路の解明

従来効果のあった抗生物質が効かない多剤耐性菌が世界各地で出現、蔓延し深刻な問題を引き起こしている。

これまでの研究から、こうした耐性菌の出現は、薬剤耐性遺伝子を搭載し、異なる微生物間を移動可能なプラスミドというDNA因子によって引き起こされ、この因子の伝播が耐性菌の蔓延の原因と考えられているが、河川流域で実際にどのように伝播するかを調査した事例は極めて少ない。

本研究では、環境中で薬剤耐性遺伝子を伝播するプラスミドの種類と伝播経路を明らかにするものである。

これにより、多剤耐性菌の出現と蔓延のリスクを正確に評価することが可能になり、これ以上の問題の深刻化を防ぐことができる。



佐々 悠木子

東京農工大学 農学研究院
動物生命科学部門 講師

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,000,000円

研究課題

多摩川の流域周辺に生息するワカケホンセイインコ (*Psittacula krameri manillensis*) など、野生化した飼鳥から人に感染する病原体の調査

近年、緑色の大きな外来種の鳥であるワカケホンセイインコが野生化して公園や住宅地に群生し、糞や鳴き声などで環境被害を引き起こしている。特に糞には病原体が含まれている場合があり、免疫力が低下した人には大きな脅威となる。近年は多摩川流域でこの鳥の大群のねぐらが確認されており、今も拡大していると予想される。

そこで本研究では、多摩川およびその流域にねぐらを有する、あるいはその可能性のある野生化した飼鳥から排泄された病原体の調査および死亡個体の死亡要因の特定を行う。

これにより、野生化した飼鳥に接した際の防疫方法を示すことができ、流域の市民の健康と安全を守るとともに、野鳥をはじめとする流域の生物資源の保全に貢献する。



春日 郁朗

東京大学 大学院 工学系研究科
都市工学専攻 准教授

- 研究期間：1年
- 助成金額：1,000,000円

研究課題

多摩川における薬剤耐性遺伝子の動態に及ぼす下水処理水の影響評価

多摩川流域では昭和40年代以降、下水道の普及が急速に進み、BOD（生物化学的酸素要求量）などの水質汚濁指標は大幅に改善されている。しかし、下水処理の普及により、多摩川の流量に占める下水処理水の比率は上昇したため、水中には下水由来の細菌、特に薬剤耐性菌などが多く含まれることが懸念され、これにより引き起こされるリスクにも留意する必要がある。

この研究は、従来のような培養に基づく研究ではなく、薬剤耐性遺伝子を直接標的とした分子生物学的手法を用いることで、下水処理水が多摩川を流下する過程で、遺伝子がどのような影響を受けるかを明らかにするものである。

これにより、下水処理水中の薬剤耐性遺伝子の量を低減させるための運転管理のあり方の検討などが進むことが期待できる。



吉川 朋子

玉川大学 農学部 生産農学科
教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：998,736円

研究課題

多摩川流域のドジョウ類の分布と生息環境、
及びヒガシマドジョウの河川内での季節移
動と環境利用

日本の河川のほとんどは支流や水田との間が暗渠や堰で遮られているため、魚類は分断された区間での生活環の完結を余儀なくされる。絶滅が危惧されているヒガシマドジョウは、昨年、多摩川支川の分断された区間で稚魚が確認されたが、河川内で本種が利用する環境は不明であり、多摩川水系に侵入が報告されている要注意外来生物のカラドジョウの分布拡大も懸念される。

本研究では、ヒガシマドジョウの多摩川水系における分布域を明らかにし、河川内の微生物環境を把握することにより、流域のどの区間に稚魚の生息環境を創出するのが有効かを考察するものである。

これにより、生物に配慮した河川改修に適した地点を選抜することで保全対策を促進するとともに、外来種との競合状態により、対策に優先順位を付けることが可能となる。



矢澤 優理子

千葉大学大学院 園芸学研究科
環境園芸学専攻 緑地環境学コース
風景計画学研究室・博士後期課程1年

- 研究期間：1年
- 助成金額：455,000円

研究課題

多摩川中流域の湧水水路網における
景観構造の解明と保全・活用方策の提案

多摩川中流域の国分寺崖線、府中崖線下の湧水に端を発する水路網は、地域固有の風景を構成する重要な地域資源である。

近年、崖線の保存重要性が議論されると同時に宅地等の開発も進んでおり、湧水・水路網やそれらがつくりだす風景の消失が懸念される。これを防ぎ地域固有の風景を継承していくためには、湧水と水路網を地域資源ととらえ、保全・活用に向けた取り組みを行うことが必要である。これまで、水路網における水質調査や生物調査は多数行われてきたが、これを地域資源としてとらえた研究はなかった。

本研究は、水路網の景観構成要素に着目してその構造を分析、解明するとともに水路網の保全・活用に向けた現状と課題を考察し、提案するものである。これにより、水路網の景観構成要素を科学的・客観的な根拠に基づき示すことができ、地域の特徴を活かしたまちづくりや環境保全計画に寄与できる。また、水路網はグリーンインフラとしての機能ももつため、多摩川流域をはじめ、他地域におけるグリーンインフラの取組拡充にも貢献する。



田中 正明

四日市大学 生物学研究所 所長

- 研究期間：2年
- 助成金額：836,520円

研究課題

多摩川上流域に侵住した大型珪藻外来種の
生息状況とその対策に関する研究

近年、日本各地の河川で超大型の外来種、ミズワタクチビルケイソウの大量出現が目撃されている。特に多摩川のもは従来の数十倍の大きさを有し、大量発生時には景観の悪化に加え、アユや水生昆虫の餌の欠乏などによる河川生態系の崩壊や悪臭、濾過障害などを引き起こす。

本研究は、多摩川水系における本種の分布拡大の現状や周年変化を調査、分析することにより、効果的な除去の対策を検討するものである。

これにより、多摩川水系の生態系保全、河川景観の保持に役立てるとともに、研究成果の公表により、世界の景観悪化問題の解決にも寄与することができる。



大貫 敏彦

東京工業大学 科学技術創成研究院
教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,000,000円

研究課題

多摩川水系におけるセミの抜け殻を利用した
土壌中元素分布の広域調査

流域の土壌からの流入に起因する多摩川の水質汚染への対策には、土壌中の元素の分布を知ることが不可欠である。これまでの調査方法では、土壌試料について、溶解するなどの前処理が必要であるほか、膨大な量の採取を定期的に行う必要があり、広域にわたる調査は容易ではなかった。

本研究は、従来の方法に替え、樹上等に残されたセミの抜け殻を利用するものである。この方法は、位置の特定が容易であり、前処理方法が統一できるという利点がある。

これにより、流域の「元素マップ」を作成することで土地利用計画や環境保全に活用することができるとともに、一般市民の協力を得ての元素分布調査手法を全国に展開することにもつながる。



寺田 昭彦

東京農工大学 大学院工学研究院
教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,000,000円

研究課題

多摩川底質の亜酸化窒素消費ポテンシャルの体系的評価：排水処理施設からの放流水の影響

生活排水中の窒素酸化物から生成される亜酸化窒素（N₂O）は二酸化炭素の約300倍の温室効果を有し、オゾン層破壊物質の一つとして削減が求められている。多摩川は排水処理施設からの処理水を大量に受け入れており、施設の出口付近での河川底質では、上流よりも多くのN₂Oが生成、消費されることが推察される。

この研究では、多摩川中流域の排水処理施設の上流、下流におけるN₂O消費に関する微生物叢および微生物の遺伝子の網羅的な解析を実施し、さらに河川底質の活性試験によりN₂O消費速度の精緻な定量を行う。

これにより、多摩川に潜む微生物の温室効果ガス削減の役割を浮き彫りにすることができるとともに、都市河川における窒素化合物消費の基礎データとしても活用することができる。



土肥 真人

一般財団法人エコロジカル・
デモクラシー財団 代表理事

- 研究期間：2年
- 助成金額：872,000円

研究課題

水の循環と子どもの遊びからみる自然と社会とのつながりとその価値について
—多摩川流域の自然環境保全に向けた流域連携の可能性に向けて

現在、多摩川流域では、国土交通省の主導による「水辺の楽校」「子どもと水辺」事業を契機として多様な活動主体間の連携による河川の管理と活用が広がりを見せている。一方、生態系や水質、水資源管理といった流域全体のマネジメントについては、地域住民の日常的な生活や風景と具体的に結びついていない。

本研究は、多摩川の水の循環と子どもの遊びに着目し、「水辺の楽校」の活動を、水の循環や生態系のつながりの上に位置づけなおすことにより、流域連携の可能性を探るものである。

これにより、市民活動の価値を自然と社会とのつながりから評価する手法が明らかになるとともに、実際のまちづくり、都市デザインへの貢献にもつながる。



二瓶 泰雄

東京理科大学 理工学部
土木工学科 教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,000,000円

研究課題

多摩川におけるマイクロプラスチック
汚染状況と魚類への影響

プラスチックが微細化したマイクロプラスチックは海洋に流れ出すと事実上回収は困難であり、また、生物が補食することによる有害化学物質の吸着なども懸念される。しかし、マイクロプラスチックがどこで生成され、それが河川によりどのように運搬されるかに関する知見は乏しい。

本研究では、多摩川流域を対象として、マイクロプラスチックの発生、輸送過程を明らかにするとともに、魚類への影響を把握するものである。

これにより、市街地化が進み人口密度が高い多摩川流域のマイクロプラスチック汚染を食い止めること、さらに、国内外の河川流域の解明と対策の一助とし、さらに、健全な河川や海域の水環境を将来に残すことにつながる。



吉永 龍起

北里大学 海洋生命科学部
准教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,000,000円

研究課題

多摩川の遺伝資源：
固有の魚類個体群とその生態

高度経済成長期の環境悪化により生物が失われた日本の河川では、現在は環境が改善され魚類相が回復してきている。一方、外来種や移入個体群による在来個体群の消滅が懸念されている。過去に当財団からの助成によりウグイ属魚類の多摩川における遺伝的特性を調査したが、判明した内容は断片的であり、遺伝資源の価値を十分に可視化するには不足している。

そこで本研究では、多摩川水系において、ウグイ属に加えてコイとサケ科魚類（イワナとヤマメ）を中心とした調査を行い、本河川に固有の遺伝資源ならびに生態的特性の実態を明らかにする。

これにより、人為的な環境変化が魚類にもたらす影響が明らかとなり、多様な生物を育む多摩川の重要性が認識される契機となる。また、多摩川を環境汚染から再生した河川として世界へ発信し、訪日客に魅力を伝えていくことも期待できる。

新規 一般研究 助成金受領者



伊藤 教行

特定非営利活動法人 R.I.La
主任研究員 理事

- 研究期間：1年
- 助成金額：497,000円

研究課題

多摩川中流域における魚類(オイカワ)をマーカーとしたマイクロプラスチック汚染調査

マイクロプラスチックによる水質汚染の一因は、家庭や工場から排出されるマイクロビーズなどであることが報告されている。特に多摩川中流域では、水生昆虫類が餌と誤認してマイクロプラスチックを補食し、それを魚類が補食する可能性が非常に高い。

本研究においては、多摩川中流域の魚類(オイカワ)の消化器官に残留するマイクロプラスチックを調査することにより現状の多摩川の汚染状況を明らかにするとともに、市民科学レベルでの汚染調査の手法を確立するものである。

この調査手法が標準化され、その結果が行政機関を動かすことにより、プラスチックの廃棄、リサイクル、リユースのあり方などについて現状が改善されることが期待できる。



渡部 一二

水縁空間デザイン研究所
所長

- 研究期間：1年
- 助成金額：493,380円

研究課題

玉川上水・本水路護岸に作られた「分水口空間」の環境調査
—江戸時代に作られた「分水口空間」の知恵をさぐる—

「分水口空間」前の広場は、管理に携わる人たちの作業場、休憩場所、豊作を祝う場所にも利用され、人と水が結びつく結節点となってきた時代が続いた。「分水口空間」と、ここから受水して流下する分水路は密接不可分の関係にあり、創設期から二百数十年にわたり多様な分水利用が展開された。

本研究は、このような「分水口広場」の将来のあるべき姿を想起するための手がかりとなる情報を集めて、現地調査を実施するものである。

この成果の公表により、市民の関心の向上、環境保全計画への活用、また、玉川上水の未来像を具体化することで「日本遺産」への認定につなげていくことができる。



蓮尾 純子

多摩川鳥類カウントグループ
会長

- 研究期間：2年
- 助成金額：674,000円

研究課題

多摩川鳥類カウント再現

約40年前に、多摩川の鳥類に対して2件の本格的調査が行われた。河口から青梅に至る鳥類全数の網羅的調査（建設省京浜工事事務所がプレック研究所に委託して実施）、および繁殖の時期と越冬の時期の計4回行った河口から青梅までのカウント調査および生態調査（日本野鳥の会が、とうきゅう環境浄化財団の助成を得て実施）である。

今回実施する研究は、前述の2つの調査と同様のエリアに対して同様の手法での調査を再現し、約40年間の鳥類の定量的生態変化を明らかにするとともに、フィールド調査技術の伝承を図るものである。

これにより、新しい時代の人と鳥との関わりを洞察し、今後の河川管理に生かすとともに、本研究を通じて自然環境の客観的な調査・評価ができる人材を育成することで、多摩川の未来に向けての環境保全・改善につなげることができると考えている。



久保田 繁男

特定非営利活動法人
横沢入里山管理市民協議会 理事長

- 研究期間：2年
- 助成金額：364,842円

研究課題

プラスチック製産卵誘致容器の活用による
トンボ類の保護・増殖

トンボ類の生息に必要とされる、多様な水域と樹林地、草地がセットになった環境は、開発や土地利用の転換、農地の放棄などにより著しく減少しており、残された場所も外来種や気候変動により不安定である。あきる野市の横沢入里山保全地域でも、トンボの生息、飛来数は減少している。主な原因は渇水期に干上がる湿地が出て来たことによる。

本研究では、従来の里山管理とは異なる新しい手法として、渇水している池に多数設置したプラスチック製の産卵誘致容器に水を溜め、干上がることもザリガニが侵入することもない水域を創出して、トンボの増殖を図るものである。

これにより、希少なトンボ類の生息担保方法を示すと同時に、湿性地を抱える他の保全地域に展開することで、生物多様性保全に対する市民の関心を高めることができる。



辻野 五郎丸

中央大学 理工学部
都市環境学科 谷下研究室共同研究員
玉川上水域研究会 代表

- 研究期間：1年
- 助成金額：500,000円

研究課題

玉川上水・分水網関連遺構 100 選の評価と
冊子・展示資料等の作成

玉川上水・分水網は江戸から東京へと連なる水の大動脈であったが、現在では、中下流にはわずかな水しか流れていない。このシステムの再生は、水循環の回復や防災上、将来の持続可能な都市形成の上で極めて重要と考えられる。このために、地域に残された玉川上水・分水網の関連遺構の発見を通じて問題を共有化することが焦眉の課題である。

本研究は、玉川上水の水の流れを基軸とした地域の分水網と関連遺構を含めた保全再生の一環として、関連遺構 100 選の現地調査、特徴の整理を行うとともに、展示、広報資料の作成を行うものである。

これにより、玉川上水・分水網全体の保全再生への市民の意識を醸成するとともに、関連する行政に対しても情報提供などの働きかけを行い、保全活用を促していく。



板谷 浩男

多摩川流域のフクロウ
調査研究グループ

- 研究期間：1年
- 助成金額：500,000円

研究課題

多摩川流域における
フクロウの生息状況確認調査

東京都のレッドリストでは、フクロウは絶滅危惧種に指定されている。しかし、選定基準となった生息情報が最近のものでないため、最近の情報に基づいた選定が必要である。

本研究では、多摩川流域のフクロウの生息状況を把握し、個体数を推定することで、希少性を検討するための資料とするほか、保全のための基本的な情報を収集するものである。

フクロウは、生態系では上位種として位置づけられているため、その生息状況を把握することにより、豊かな自然環境が残存しているか否かを判断する指標になることが期待される。

継続 学術研究 助成金受領者



端 昭彦

富山県立大学
工学部環境・社会基盤工学科 講師

- 研究期間：2年
- 助成金額：790,000円

研究課題 多摩川における感染力を有した腸管系ウイルスの動態解明



山村 雅幸

東京工業大学 情報理工学院 教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,324,800円

研究課題 多摩川の微生物生態系モデル構築による下水処理水の影響や季節変動の解析



鏡味 麻衣子

横浜国立大学大学院 環境情報研究院
教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,700,000円

研究課題 多摩川河口域における水生菌類の多様性と有機物分解機能の評価



今井 伸夫

東京農業大学 地域環境科学部
森林総合科学科 森林生態学研究室 准教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,661,900円

研究課題 多摩川源流域における「耕作跡地の二次草原」の生物多様性とその時空間動態



黒木 真理

東京大学大学院 農学生命科学研究科
助教

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,700,000円

研究課題 多摩川水系におけるニホンウナギの保全のための資源生態調査



元木 悟

明治大学農学部農学科・野菜園芸学研究室
准教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,224,000円

研究課題 多摩川流域のアブラナ科アブラナ属の地域在来野菜における遺伝的由来と品種および栽培特性に関する研究



岡田 往子

東京都市大学 工学部 原子力研究所
准教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,700,000円

研究課題 多摩川水系における天然及び人工放射性物質の環境総合評価



高尾 美鈴

中央大学大学院 経済学研究科

- 研究期間：2年
- 助成金額：913,000円

研究課題 多摩川流域の観光発展と環境教育の役割について—人々の観光に関わる行動分析と観光政策—

継続 一般研究 助成金受領者



柴田 隆行

多摩川の自然を守る会 代表

- 研究期間：2年
- 助成金額：163,000円

研究課題 多摩川における日本在来河原植物の分布調査



井口 三月

御岳山苔の会 代表

- 研究期間：2年
- 助成金額：82,680円

研究課題 御岳山山城 蘚苔類フロラ調査—御岳山の苔の魅力を発掘し、大切な資源として後世に遺すために—

－研究助成成果報告書について－

これまでに助成した研究のうち、下記のものについて成果報告書をご提出いただきました。
なお、成果報告書は今後、財団公式ウェブサイトに順次掲載してまいります。

種別	成果報告書番号	研究者氏名 (敬称略)	所属・役職 (成果報告書提出時点)	課題名
学術研究	336	井上一雅	首都大学東京大学院人間健康科学研究科 准教授	多摩川水域における希土類元素の存在分布とその起源に関する研究 －主としてMRI造影剤用のガドリニウム濃度との関連性について－
	337	吉永龍起	北里大学海洋生命科学部 准教授	都市型河川における魚類の遺伝的多様性
	338	小池裕也	明治大学理工学部 専任講師	多摩川集水域 50地点定期モニタリングによる放射性セシウム蓄積スポット調査
	339	齊藤玉緒	上智大学理工学部 教授	多摩川の河川水、及び河川底の環境DNA解析による微生物叢解析 －微生物を指標とした河川管理ガイドラインの提案の試み－
	340	関本征史	麻布大学 生命・環境科学部 准教授	多摩川の潜在的な希土類元素汚染と水生生物に対する生体影響の解析
	341	宮間純一	中央大学文学部 人文社会学科 准教授	多摩川流域所在アーカイブズの情報集約・公開に関する調査・研究 －地域持続のために－
	342	田中 恵	東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科 准教授	多摩川上流部の里山林における菌類多様性評価 －里山林は樹木共生性きのこの種多様性の受け皿となりうるか－
一般研究	241	鈴木浩克	井の頭 自然の会 代表	ICレコーダーを利用した多摩川上流部及び東京都山間部における絶滅危惧鳥類と希少鳥類の生息調査
	242	大嶽貴恵	環境まちづくりNPOエコメッセ 理事長	多摩川流域の地下水の文化、価値を継承する次世代教育のためにコミュニケーションを重視した「水を守る」「水を活かす」リーダーとなる人材育成
	243	鈴木利博	学び舎江戸東京ユネスコクラブ 水と緑・環境委員長	小平市内における玉川上水系分水路網の基礎的環境調査(玉川上水中流域の小川分水と分水路網の残存状況調査)
	244	福嶋 徹	Geo Wonder企画 むさしの化石塾 代表	多摩川産軟体動物化石を利用した環境教育実験と市民参加型・調べ学習による「第四紀学」の古環境復元の研究
	245	辻野五郎丸	玉川上水域研究会 代表	玉川上水・分水網の保全再生とフィールド・ミュージアム展開に関する調査
	246	北村 敏	グループ・みずと暮らすひの	21世紀初頭における多摩川および浅川水系流域の残存灌漑水田の立地環境の人文学的実態把握調査と水田・用水保全活用に向けての将来的課題の研究

3 活動支援事業について

第11回「東急財団 社会貢献環境学術賞」を贈呈しました。

受賞者は、中国雲南大学 特別名誉教授 公益財団法人 自然保護助成基金 理事 大澤 雅彦様です。

この賞は、当財団の前身であります、とうきゅう環境財団におきまして、財団設立 35 周年記念事業として、2009 年に創設いたしました。日本の環境分野において学術的、かつ社会的に特に顕著な業績を挙げた研究者を表彰するものであり、以来、環境に関する研究・活動助成、啓発普及と並ぶ、財団の公益事業の柱として継続してまいりました。新生「東急財団」最初の表彰となります今回は、当財団選考委員会における厳正な審査の結果、東京大学大学院 農学生命科学研究科教授、福田健二様よりご推薦をいただきました、中国雲南大学特別名誉教授、公益財団法人 自然保護助成基金理事、大澤 雅彦様が受賞されました。

2019 年 11 月 29 日（金）にセルリアンタワー東急ホテルにて「第 11 回東急財団 社会貢献環境学術賞贈呈式」を開催いたしました。

受賞者 大澤 雅彦様は一貫して、植生を中心とした自然環境と人間社会との関わりについて研究してこられました。その業績の中でも代表的なものに、世界の山岳地域における人と自然の関わりに関する生活帯生態学的研究（Life Zone Ecology）があります。大澤様は、日本国内はもとより、ヒマラヤ、中国、東南アジアをはじめとする世界各地で、低地から山岳の森林限界に至る現地調査を行い、植生帯の水平および垂直分布構造とその成因を解明されました。すなわち、赤道直下の山岳の標高に伴う植生帯の変化（垂直分布）は、それまで考えられていたような赤道から北極に至る植生帯の水平分布を標高に沿って積み上げたものではないことを、初めて明らかにしました。熱帯山岳では、標高に伴う気温（積算温度）の低下に応じて植物種が交替しますが、いずれの標高でも常緑広葉樹林となるのに対して、温帯以北では高緯度地域ほど季節変化が大きくなるため、積算温度ではなく冬の低温に対応して、常緑樹林から落葉広葉樹林、針葉樹林という植生帯の変化が起きることを明快に説明されました。この画期的な知見は、2001 年に始まった国連ミレニアム生態系評価（MA）プロジェクトの最終報告書「第 24 章 山岳システム」にも引用され世界の生態系サービスとその将来予測の基礎となっています。

大澤 雅彦様の実績は、まさに本賞の趣旨に合致するものと考えております。

【贈呈式で使用しましたレジュメ、講演内容等は財団公式ウェブサイトからご覧いただけます。】



東急財団但馬常務理事と記念撮影



受賞講演「現場から見る湿潤アジアの山、人、自然—豊かな生物多様性を支える生育地と気候変化の影響—」

4 啓発普及事業について

小学生向け環境副読本を全面改訂しました。

新版副読本「ようこそ多摩川へ」は、本年 4 月から使用開始予定です。

入手方法等につきましては決定次第、公式ウェブサイトで発表いたします。



ふらりさらりと 川辺でー服

その①

澤乃井園（東京都青梅市）



山々の間を駆け下ってきた多摩川も、このあたりに来ると、しばしの安らぎを得ているようだ。その多摩川を抱く空と地面の間に開けた段丘の、中腹の庭園いっばいに広がっているのが、この「澤乃井園」だ。

この土地の豊かな湧水の恵みを得て日本酒の醸造業を営んできた小澤酒造が、いわゆる観光酒造の先駆けとして、酒蔵見学ツアーを始め、そして、見学のあと食事を楽しめるようにと、昭和42年（1967年）に整備したのが始まり。



今ではこの庭園の中に「豆腐ゆば会席 ままごと屋」「豆腐じゅうじゅう焼 豆らく」「清流ガーデン 澤乃井園」が相次いで開業し、さながらテーマパークの様相を呈している。

今回訪れたのは「澤乃井園」。川のほとりに建つ東屋と、露天のテーブルが並ぶエリアだ。なにしろすぐ隣に、多摩川の息遣いが感じられるのが嬉しい。この店はセルフサービスなので、まずは川にいちばん近い席にいったん腰を落ち着けてから、おもむろに席を立て、何を頂くかあれこれ迷ってみる。



ここはやはり、清らかな水の恵みを楽しむなければなるまい。まずは、豊かな湧水が産み出した豆腐から。重厚な木綿豆腐を冷奴で頂く。口に入れると、深いところから大豆の滋味が語りかけてくる。添えられた生姜の辛さが心を引き締めしてくれる。次は、とても大豆から出来ているとは思えない「畑のお肉」なるもの。「チーズわさび漬」は、澤乃井の酒粕と奥多摩名産のわさびを使っている。少し腹にたまるものも欲しいということで、「卯の花入り酒饅頭」を土産物店から調達。そして日本酒は、香りが高くどんな料理とも相性がいいと店の人に勧められた「純米吟醸 蒼天」を合わせる。

この一角は実に楽しい。いろいろな客人がやって来る。酒蔵見学の観光客だけではない。表通りと反対側の川のほうからは、ハイカーが吊橋を渡って来る。川辺の大岩でボルダリングに挑戦する人たち、かと思えば上流から音もなく流れ着くラフティングのゴムボート。また時折、慌ただしく水面に降りてきて翼を休める鳥たち。静けさの中にも賑やかさが満ちている。そして、川の流れやせせらぎの音は、それら全てを優しく包み込んでくれる。

どこからともなく、木の葉がひらりと向かい側の椅子の上に舞い落ちる。手元のグラスに注いだ水も旨い。居心地の良い時間が過ぎゆく中で、冷たい川風を心地よく感じつつ、早くも心は夏に向かってふくらみ始めている。

「澤乃井園」 東京都青梅市沢井2-770

TEL 0428-78-8210

JR 青梅線 沢井駅下車

10～17時 月曜定休（祝日の場合は翌日）

ゆく河の流れは絶えずして、川辺の私服は次回に続く。

事務局より

長くて寒かった冬ももうすぐ終わりですね。多摩川のあちらこちらに、新しい命が生まれる季節です。昨年の台風の爪痕が残る河原にも、きっと緑が芽生えてくることでしょう。4月には、東急財団も発足1周年を迎えます。多摩川とともに暮らす人々のために、そして生き物たちのために何をすべきなのか、何ができるのかを、考え続けていきたいと思っています。(Z)



2020年度の助成研究・活動の応募申請が新規で45件ございました。

募集告知にご協力を頂いた関係先の皆様に御礼申し上げます。

3月に開催予定の当財団選考委員会で決定します。

引き続きよろしく願いいたします。(M)

- 発行日 2020年3月1日
- 編集兼発行 公益財団法人 東急財団 環境部
〒150-8511
東京都渋谷区南平台町5番6号
TEL 03-3477-6301 FAX 03-3496-2965
公式ウェブサイト：<https://foundation.tokyu.co.jp/>

